

「長時間労働の是正と人材活用による生産性向上の具体策」登壇企業紹介

※五十音順

●株式会社オカムラ 中部支社

(名古屋市[本社・神奈川県横浜市]、全社約 3500 名、オフィス家具の製造・販売、大企業)

『これからののはたらくと柔軟性。環境+仕組みで人が活きる組織づくり』

とてもオシャレなオフィスで最新の働き方をしている！という印象の同社ですが、当然初めからそうだったわけではなく、1人ひとりのビジョンをカタチにするために、身近で地道な試行錯誤の繰り返しを全社員で進めてきました。働き方改革を「ワークルール」、「ワークIT」、「ワークプレイス」、「ヒューマン」の4つの要素で捉え、そこを変えていくことで初めて実現する理想的な在り方とは？働き方改革の目的をしっかりと見つめながら、社員が主体的に取り組み、職場に笑顔が生まれる生産性の高め方の秘訣をお話いただきます。



●株式会社中部テクノス

(名古屋市、約 60 名、建設コンサルタント・測量、中小企業)

『働き方の改善が大好きですね！と熱く語る経営者の、人材力&生産性向上策』

社長に就任して4年目。トップが旗振りをして大きく改革をしてきた成果がしっかりと数字に表れています。多様な立場の社員が共に働く職場において、社員が意欲的に変化し成果を上げるためにトップは何を実行してきたのか？長時間労働が当たり前だった職場が残業時間を削減するためのコツや考え方、評価制度や賃金はどのようにしているの？など、超具体的な取組みについて、惜しみなく披露していただきます。ぜひ会場でたくさんご質問ください！



●筒井工業株式会社

(半田市、約 50 名、粉体塗装、中小企業)

『働き方改革は中小企業いじめではないか…?! ⇒⇒取組んでみたら成果出た!』

登壇者が社長に就任した頃、世間では働き方改革が叫ばれはじめ、当初は中小企業いじめでは?と思ったそうです。しかし、真面目に、愚直に取り組んでみると、非常に高かった若者の離職率が激減!3年かけて「人の課題」に取り組み、手ごたえを感じています。とはいえ、人の問題は…なんとも面倒!!そこで社長が考えたのは、「これだけ面倒という事は、10年しっかりやれば差別化が図れるのでは??」という事。愛知県の無料制度を大いに活用しながら、コスト最小限で組織変革を進める過程は必見です。



●株式会社トヨコン

(豊川市、約 150 名、物流に関するアウトソーシング事業、中小企業)

『いつでも休める体制づくりを!気づけばチーム力で進めていた新しいチャレンジ』

「財総務部」(当時)という部署は、人に関する事、お金に関する事など担当により仕事の内容がまるで違う。そんな自分たちが「チームで」仕事を回す体制を作れるのか??イメージが湧かなかったものの、“効率化”や“休んでも回る体制”など、個々が何か対策したいと準備していた部分が、取組をきっかけに一気に噴出!短期間で仕組みづくりから新たなチャレンジまで活動が進んで行きました。その後実際に起きた『事務所の移転』や『上司の不在』にそれがどう作用したのか?具体的な取組内容についてお話いただけます。

